

おぼすて かむりき
姨捨山(正式名は冠着山 1,252m)

日程：2017年7月2日

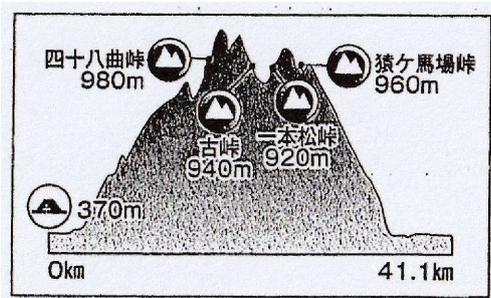
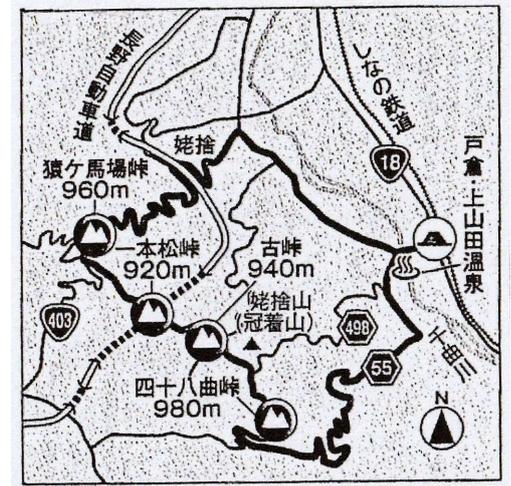
メンバー：S (単独)

雑多な切り抜き書類を整理していたら、サイクル・ブックス(自転車の雑誌)2009.6月号の特集記事「信州の峠20」が出てきた。歳をとって足腰が弱まったら、山登りはほどほどに自転車という乗り物を頼りに遠出できないものか、と考へ切り抜いたのだろう。

峠には、一種独特の趣があって好きだ。苔むした小さな祠に石仏が鎮座していたり、石に掘られた道標が草むらにひっそり佇んでいたりする。人は墜道をうがつ技術を持ちあわせなかったころ、山の向こう側への探求心から、峠道を探り当て、自分たちの世界を拡げてきた。

三年前に訪れた信州百峠のひとつ保福寺峠で、若者たちに出会った記憶が、鮮やかによみがえってきた。四人はマウンテンバイクで登って来て、いい汗をかき、その瑞々しさがとてもまぶしく見えた。私も峠を自転車で登ろうという気になって、車に自転車を積んで、でかけることにした。

小雨と濃霧をついて軽井沢・追分から18号線を北上し、戸倉上山田温泉にやってきた。千曲川沿いの77号線と、麻績宿へ行く55号線の交差点が、今回の峠への自転車バイクライムの出発地点だ。四十八曲がり峠へ向うつづら折りを登り、長い坂上り峠を抜けると、姨捨山の登山口があった。しかし、登山道が崩落していて、全面通行止めの表示。やむなく篠ノ井線の冠着駅へ下り、古峠へ登り、四十八曲がり峠へ登り返し、歩いて姨捨山へ登った。



昨日降った雨でしっとりとした登りは、実に気持が良かった。頂上からの眺めは、手前に千曲高原、1,000m級のおだやかな山々に囲まれた塩田平、その先には越後 妙高の山々、背後には日本アルプスの秀麗な山稜が見渡せて、360度のパノラマ風景は素晴らしいの一言に尽きる。田んぼの稲穂の若草色、山あいの樹々の緑のグラウンディングを飽きずに見ていると、「やはり瑞穂の国なんだな」と感慨深かった。

その先、一本松峠、聖湖、猿が馬場峠を巡り、大池自然の家へ下りた。かって村おこしに政府が1億円ずつ配った折に、その金で温泉を掘り当てたという、佐野川温泉「竹林の湯」でひと風呂浴びた。

「田毎の月」と呼ばれ、月見の名所と文人墨客が多く訪れたことで有名な長楽寺に立ち寄った。謡曲「姨捨」の舞台でもある。都の男が中秋の姨捨山にやって来て月の出を待っていると、月とともに里の女が現れ、姨捨の旧跡を教え、山に捨てられた女の幽霊だと名乗って消える。姨捨の伝説を語り、月の美しさを詠嘆するという話だ。また、深沢七郎氏作の姨捨を舞台とした「檜山節考」は、棄老伝説を題材とした作品で、当時多くの人に衝撃を与え絶賛された。今村昌平監督、緒方拳主役で、映画化され話題を呼んだ。

長楽寺で信州そばを食べながら、素晴らしい姨捨の棚田と千曲川の展望を満喫した。